

2021 夏季手当交渉 最終回答

本部は、6月17日、2021夏季手当の最終回答を受けました。以下、報告します。

会社・基準額は、基準内賃金の1,77 箇月分とする。

組合・要求額とは乖離があり納得できないが、昨年夏季手当1,75 箇月を上回っていることを評価し妥結とする。

(組合)

コロナ禍での景気低迷に伴い、運輸収入が対計画約▲20 億円と厳しい現状は理解する。

何度も言っているが、この難局を労使が一体となって打破していかなければならない。

提示された「基準内賃金の1,77 箇月」回答は、要求額とは乖離があり多くの不

満はあるが、この状況下で昨年夏季手当（1,75箇月）を上回ったことを評価して席上妥結とする。

最後に、コロナ禍により人流が大変革したことで、各JR会社は一時帰休や出向を実施するなどして、懸命に会社（線路）を守っている。JR貨物は、各JR会社の線路がなければ事業を継続することが出来ず、各JR会社が復活しなければJR貨物の経営にも大きな影響を及ぼす。

コロナ禍により世の中が有事になったことで、JR連合を通じて、JR産業・JR貨物の必要性を関係大臣、政党にも浸透させ、債務等処理法改正で138億円支援を得ることができた。また、あらゆるチャンネルを活かし、JR連合は初めて経団連とも意見交換をした。目まぐるしく変化していく世の中に対し、順応に対応していかなければ生き残ることは出来ず、認知されているJR連合だからこそ、経団連との意見交換が実現したことであり、貨物鉄産労をパートナーとして選ぶことが、JR貨物にとって将来にわたり得策であることを提起しておく。

以上
